

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 26 年度

事業所番号	2774002170		
法人名	有限会社 岸本総合企画		
事業所名	グループホームアミティ豊中		
所在地	大阪府豊中市蛍池南町3丁目8-1		
自己評価作成日	平成 27年 1月 14日	評価結果市町村受理日	平成 27年 5月 28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念の「その人らしさを大切に 住み慣れた町で仲良く ゆったり 豊かに 楽しい生活を」を基にして、季節の移ろいを感じていただけるように、季節行事を充実させ、お花見やバーベキューの際には、家族様にも参加していただき、共に楽しんでいただけるように努めています。
 その他、生活と医療のバランスを考え、出来る限り自立した生活を送っていただけるよう、入居者様の「出来ること」、「出来ないこと」を見極め、入居者様に不安や混乱を極力感じていただかないように努力しています。
 薬に関しても、必要最低限の服薬で、副作用を出来る限り少なく過ごしていただけるようにしています。医療的には、早期発見、早期対応を心掛け、主治医も夜間往診して頂ける医院に変更し連絡もみるにとり、家族様に相談し、本人様に安心して過ごしていただけるよう努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JiryoNoCd=2774002170-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 27年 1月 30日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域で生まれ育った代表者が、地域の要望を受けて設立した2ユニットのグループホームです。設立後11年を経過し、地域の中での存在感を高めています。ホームは4階建てで、1階の総合玄関を入ると応接間、事務所等があり、利用者が過ごす2・3・4階には玄関横のエレベーターを利用できます。屋上には広いテラスがあり、家庭菜園も楽しめます。居間には絵画や手作りの作品等を掲示し、季節柄お雛さまを飾って楽しんでいます。乾湿計等を配置して、清潔で明るく居心地の良い環境づくりをしています。経験豊かで明るく元気なスタッフが「その人らしさを大切に」利用者支援をしています。利用者は、新聞を読んだり、テレビを見たり、ゆったり穏やかに過ごしています。ホームでは、提携医師の協力により24時間医療連携支援を行っており、利用者の体調に変化があればいつでも往診を受けることができます。利用者家族の要望に応え、終末期支援にも取り組んでいます。行政との連携が良く、管理者は熱心で職員間のチームワークも良いことから、今後もさらにサービス向上が期待できるホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員室横に掲示しており、出勤時、退勤時、目に付くようになっており、1人1人が確認できるようにし、スタッフ全員が内容を理解し、ユニット会議では、個人個人の入居者様にとってのその人らしさを話し合いケアにつなげている。	《その人らしさを大切に住み慣れた町で仲よく「ゆったりと」「豊かに」「楽しい」生活を》を理念としています。理念はホーム内に掲示し、職員は理念を共有して、利用者がその人らしく豊かな生活ができるように、日々理念の実践に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	隣接した公園に職員や入居者様と近所の方々との団欒の場がある。職員は出勤時、退勤時に挨拶や会話を交わしている。 月1回金曜日にクラブを開催しており、その中の1つに喫茶クラブがあり、近隣の方を数名招き入居者様と共にお茶をいただいている。 地域とのつながりとして、運動会や盆踊り、餅つき等に参加させて頂き、近くの神社のおみこしが町内を練り歩く際、ホームの前で止まり、見せて下さる。 中学生の職場体験に協力しており、学生2名の受け入れをしている。	ホームを開設して11年が経過し、地域住民と職員は顔なじみになり、気軽に挨拶しあえる関係になっています。ホーム主催の「アミティ喫茶」は、本職の喫茶店に協力を依頼して運営し、近隣の住民を招いて、利用者と一緒に美味しいコーヒーを味わいながら歓談する交流の場となっています。近くの小学校で開催される地域の運動会、地域の盆踊りや餅つき行事等にも参加しています。中学生の職業体験受け入れを行い、利用者で交流できる場を設けています。ホームは自治会にも参加し、自治会の協力を得て「アミティグループ地域防災支援組織」を作っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	月に一回金曜クラブを開催しており、その中に「アミティ喫茶」と称し地域の方々を招き、直ぐに入居するのではなく、ホームの中や入居者様を知っていただき段階を経て入居できる体制を徐々に構築している。 電話相談に対しても、おおむね状況を聞かせていただき、当ホームの限界をお伝えし、納得していただいた上で、他のサービス等の紹介をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回開催し、入居者様の状態や地域の行事への参加、今後の行事の予定、クラブ活動等の催し等を報告している。 メンバーの方から、地域の行事への参加のお誘いやウエスの寄付等入居者様へのサービスの質を向上させる為の助言や地域の方々との交流の橋渡しをしていただいている。	「運営推進会議に関する規程」を整備し、運営推進会議を2カ月に1回開催しています。構成メンバーは利用者、利用者家族、地域住民代表、知見を有する者、地域包括支援センター職員、市職員等です。会議ではホーム職員が利用者の状況や運営の報告、行事の報告等を行い、参加者からは地域の行事のお知らせやお誘い、事業所に関する情報提供等があり、活発に意見交換をしています。出された意見や要望については、ホーム運営に活かしています。ホームでは今後、より多くの利用者・家族が運営推進会議に参加できるよう、取り組む予定にしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類提出等で月1回は市の窓口を尋ねるようにしており、気軽に相談できる関係作りに力を入れている。 そのほか社会福祉協議会からの相談員の受け入れや110番子供の家、市民救命サポーター・ステーションになっている。	管理者は月1回程度、市の担当窓口に出向き、書類の提出や情報交換を行い、ホーム運営や利用者支援についても相談しています。介護相談員の受け入れを行っています。また、「110番子どもの家」や「市民救命サポーター・ステーション」を担うなど、市が推進する取り組みにも積極的に参加し、市との協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は一切しておらず、すべての職員に徹底している。 電子ロック錠に関しても、横に暗証番号を掲示しているので、3階の入居者様は、リビング、居室を自由に昇降される方も居られる。 言葉の拘束に対しても、その都度話し合い、行動を抑制するような声掛けは極力せず、入居者様お一人お一人が思い思いに過ごせるよう心掛けている。	身体拘束防止マニュアルを作成し、年1回身体拘束防止に関する職員研修を行い、身体拘束についての理解を深めています。言葉の拘束については職員間で注意喚起し、日々のケアの中で気になることがあればその都度、声かけをして、利用者の行動を抑制しないようにしています。ホーム玄関は、終日施錠している状況です。ホーム内のエレベーターは電子ロックをしています。昇降の際にはボタンの横に表示している暗証番号を見ながら、活用できるようにしています。一部、暗証番号を活用して昇降している利用者もいますが、ほとんどの利用者は活用できていない状況です。	「鍵をかけないケア」の実践に向けて、安全性を確保しながら取り組むことが求められます。玄関及びエレベーターの開錠について、職員間で話し合い、時間帯を決めるなど、できることから進めてはいかげでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット内でも、日常的に管理者やリーダーが職員とコミュニケーションを取り、不満や意見を聞き、常に職員の心のケアに勤めるよう心掛けている。 人と人のかかわりの中で性格上合う、合わないがあり、時間やタイミングによっても変わってくる。そのことを踏まえ、スタッフ同士で助け合い、交代し合える様に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者およびケアマネージャーが対応しており、職員への説明はその都度行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、図表を取り入れ、わかりやすく簡素化した上で、それを基に口頭で説明を加え理解していただけるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>介護相談員さんの定期的な来所により、入居者様からの相談事については、相談員さんから施設側へのフィードバックできる体制を取っている。家族様に対しては、管理者やケアマネジャーが面会にこられた際等に話を聞き対応させて頂いている。</p> <p>玄関には、公的な苦情受付機関や介護相談員の来所日をお知らせし、相談、苦情解決の第三者窓口を紹介している。</p> <p>その他、ホーム内での相談(苦情)受付担当者や相談(苦情)解決責任者を掲示している。</p>	<p>家族来訪時には、管理者や計画作成担当者が利用者の様子を報告し、意見や要望を傾聴しています。また、利用者・家族の要望や意見が速やかに管理者へ届くよう、相談受付担当者を配置し、記録は職員間で共有して業務に活かせるようにしています。毎月、利用者の様子を知らせる写真入りの「アミティ通信」を家族に送付して、家族からの意見が出やすいようにしています。また、介護相談員を通じて利用者の声や希望等を把握し、支援に活かすよう取り組んでいます。</p>	<p>ホームでは直接面談する機会の少ない家族に向けて、意見や要望等を出してもらい機会づくりを検討しています。記載しやすい内容のアンケートや運営推進会議の報告書等を同封するなど、できることから始めてはいかがでしょうか。今後、取り組みの成果が期待されます。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ユニット会議で、スタッフより意見を集め、リーダーは、運営会議に参加し、代表者、管理者と意見交換ができる時間を設けている。</p> <p>その他、代表者、管理者はスタッフと個別に話し合う時間を設けるように努めている。</p>	<p>管理者は日常的に職員の声を聞き、業務に反映できるように努めています。また、ミーティングやユニット会議で出された意見を活かし、業務の改善につなげています。運営に関する課題については、事業所運営会議で検討し反映するよう取り組んでいます。代表者や管理者は、職員と個別に話し合う時間を設け、ホーム運営が潤滑に進むよう努めています。各種会議の内容は議事録に記載し、全職員に周知しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者は、スタッフと会話する時間を多く持つようにしており、ストレスの軽減や予防、研修への参加希望等に耳を傾けている。 各スタッフのレベルに応じた研修への参加要請も行なっている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>奇数月にミニケアレポートと称し講師が事業計画で定めた季節に応じた感染症や病気、ケアの注意点を題に何問か出題し職員が宿題として行うミニケアレポートと偶数月に講師が事業計画で定めたお題を職員に講義する内部研修を実施している。 内部研修に参加出来ないスタッフには回覧研修を行っている。外部の研修も案内を掲示し、希望があれば検討している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>事業者連絡会や地域のグループホームの合同運営推進会議に参加させていただき、研修や事業所で抱えている悩みを相談する機会を設け、活発に意見交換や交流を図っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当時は不安が多く、混乱されていることも少なくない。そのことを踏まえ、家族様より生活歴、趣味趣向を聞き、コミュニケーションの時間を多く持ち、各スタッフを信頼し、安心して過ごしていただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話相談では、おおむね状況説明をして下さるが、来訪されてからは、相談できる場所は設けているが、初回より話される家族様は少なく、何度か来訪されるうちに信頼関係が築け、辛かった日々のお話を打ち明けられる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	電話相談時におおむね状況を聞かせていただき、当ホームの限界をお伝えし、納得していただいた上で、他のサービスの紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活のことや調理のこと、時には女性の入居者様に味見をして頂いたり、食材を盛り付けていただいたり、リビングの掃除を手伝っていただいている。 昔の風習や方言等教えていただいたり、相談したり一緒に考えたり出来るように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様来訪時には、職員との意見交換が出来る時間を設けており、現在の状況や生活歴、本氏からの言動等の疑問を相談し今後のケアの方針を話し合うようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームの開放により、馴染みの人の来所はなされており、外食やお散歩に行かれる方も居られ、時々電話での連絡もあり、本人様におつなぎしている。	友人や知人が来訪した際は、利用者の居室でゆっくり話ができるよう支援しています。利用者が馴染みの場所に出かけたり、友人と面談したりできるように、家族の協力を得ながら支援しています。また、友人や遠隔地の家族との関係が途切れないように、手紙や年賀状を出したり、電話をかけたりする際の支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	カラオケや園芸、手芸等のクラブを作り、得意な事、昔されていたことに参加していただいている。その中で馴染みの関係を作り、共に作業したり、お互い助け合ったりされている。日常生活の場においても、入居者様同士困っておられたら助け合う関係が出来ているので、人間関係を考慮し、席を考え、入居者様同士親睦を図れるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護度の関係や入院治療等の理由で退所された方に対しても、電話連絡やお見舞いに行き、本人様の容態や、家族様の悩みを尋ねるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の思いや暮らし方をたずね、それに沿って支援できるよう心がけている。本人様から聴取が困難な場合は、家族様より生活暦や趣味等を聞き、本人様に楽しんで頂ける様に心がけている。入居後に会話等の中で出た新たな情報は生活履歴追記シートに記入して情報の共有をしています。	職員は日々の関わりの中で、一人ひとりの思いや意向をさりげなく聞き取っています。言葉で表せない場合には、表情やしぐさ、行動等で確認しています。また、家族の協力を得て本人の意向を確認することもあります。利用者の情報はできるだけ記録に残して共有し、支援に活かしています。生活履歴追記シートについては、さらに活用しやすい形態を検討している状況です。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される際、所定の用紙を家族様に記入して頂きその情報を元に本人様とコミュニケーションを取り、情報を得ていくようにしている。入居された後、家族様と信頼関係が徐々に構築され職員との会話の中で、本人様の情報をお教えいただいた際に記入できる生活履歴追記シートを使用し全ての職員が出来る限り同じ情報量を共有できる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体操や水遣り、昼寝等習慣化された事やその日の状態によって、1人、ひとり違った一日を過していただいている。又、一人、ひとりが日々過されていく中でも、有する力が変化して行く事を頭に入れ接し、何気ない動作の中にもいつもと違う何かを感じ取れるようにし、総合的に判断、把握できるように努めており、その日の出来る事、出来ない事を判断し、その場、その場で、対応を変える様に心がけている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様に面会時、希望、要望を聞くだけでなく、現場職員の意見を反映する為にケア会議やフロアミーティングにより話し合う場を設けている。	介護計画書は、利用者や家族の意向を確認して職員間でアセスメントを行い、ケア会議やフロアミーティングで話し合っ作成しています。必要時には、医師や看護師等のアドバイスを受け、利用者家族を交えて話し合いをしています。介護計画書は職員間で共有し、実施記録を残してモニタリングを行い、3ヵ月毎に見直しをしています。介護計画書は家族に説明し、了承を得ていますが、遠隔地等で家族に直接会えない場合には、郵送をして了承を得ています。	ホームではフェイスシート、アセスメントシート、生活歴追記シート等を有効に活用できるように工夫して、さらに「その人らしい支援」を充実させる予定です。今後、取り組みの成果が期待されます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフの気付きや発見、入居者様の言動を記入するようにしており、書き方を統一するように心がけている。 ケアチェック表にはケアプランも記載されており、毎日サービスが提供できたかチェックする枠が設けられており、介護計画の見直しに役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院等家族様の意向により職員や管理者が付き添い出かけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	選挙や敬老の集い、市民健診等に参加し、小学校や中学校に出向いる。 その他、地域の季節行事も介護相談員の方から声を掛けていただき参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所以前からかかりつけ医が居られる場合は、入所されてからも継続していただけるよう体制を取りドクターと事業所との信頼関係を構築し保てるよう心掛けている。 病状が変わられた場合に関しても、本人様、家族様と相談し、新規に病院と本人様、事業所の信頼関係を築けるよう心がけている。ターミナルケアも視野に入れ、夜間や急変時にすぐ往診して頂ける医師に主治医になって頂いている。</p>	<p>利用者・家族の希望に添った医療機関で、適切な医療が受けられるように支援しています。希望者には、ホームが提携する医師から月1回往診を受けることができます。また、必要に応じて、家族了解のもと歯科医師の往診を受けています。その他、眼科等の医療については、職員が付き添い受診支援をしています。ホームでは、提携医師の協力により、24時間医療連携支援を行っており、利用者の体調に変化があればいつでも往診を受けることができます。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師との連絡ノートを作成している。 その他にも、口頭での指示、実際の手技を観て看護師がいない場合でも、出来る範囲で支援している。 受診の際も、本人様の状態を看護師に伝え、本人様の状態を把握し、適切な医療、処置を受けることが出来る様、出来る限り看護師も立会い受診している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医と連絡を密にとり、症状が悪化しないように早期発見、早期対応を心掛けており、入院された場合は、入院された医療機関に、なるべく短いスパンでお見舞いに行き本人様の状態を直に観察し、ドクターや看護師から状態の予後を聞き早期退院に努めている。ターミナルケアも視野に入れ、夜間や急変時にすぐ往診して頂ける医師に主治医になって頂いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で、ホームの限界を説明し、理解していただいております。面会の際、常に話し合いの時間を持ち、終末期の方向性を検討し、主治医や看護師から助言をいただき、本人様の意向になるべく添えるようにしています。	入居契約時には「利用者家族の希望に添って可能な限り終末期支援を行う」という方針を説明しています。重度化した場合には、利用者家族の意向を再度確認し、医師や看護師、家族と相談しながら支援方針を具体化しています。「最期までホームで過ごしたい」という利用者・家族の意向を尊重し、看取り支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員はほぼ全員普通救命講習を受講しており、市民救命サポーター・ステーションに登録している。 定期的にミニケアレポート等で緊急時の対応を再確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害対策のマニュアル、緊急連絡網を作成し、災害時対応出来る様に体制を整えている。 年2回避難訓練を実施している。 また、火災や地震等の有事の際には駆けつけて頂ける地域の方々と職員から成る「アミティグループ地域防災支援組織」を結成することが出来た。</p>	<p>運営規程に非常災害対策の項を設け「年に2回定期的に地域の協力機関と連携を図り、避難訓練を行う」と明記しています。2014年度は、この1月に消防署の立ち会いを受けず、独自の消防避難訓練を実施しています。非常災害時の協力体制については「アミティグループ地域防災支援組織」を結成していますが、今回の避難訓練では連携した取り組みは行っていない状況です。避難訓練実施状況は記録に残し、職員間で共有しています。災害時の備蓄については、ホーム1階の事務所に水、非常食、日用品等を2～3日分程度保管しています。</p>	<p>避難訓練については、年度当初に開催日を決めて関係者に周知してはいたがでしょうか。そのうち1回は、消防署と連携した取り組みが求められます。今後は「アミティグループ地域防災支援組織」との連携等、取り組みの成果が期待されます。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいやプライバシーについては会議や内部研修、ミニケアレポートのお題としても取り上げ、個人レベルでも勉強し、徹底している。日頃のケアの際も、耳障りな表現や不適切な声掛け等を互いに注意し合える関係作りをしている。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重した支援をしています。言葉遣いやプライバシーの確保については、会議や内部研修等を行い、利用者の希望に副った支援に努めています。また、職員間では「決定権は本人にある」ことを徹底して、利用者が自己決定できるように支援しています。利用者の秘密保持については、「個人情報の保護に関する法律」に基づき、職員と守秘義務に関する契約書を交わしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の希望や要望を理解力に合わせた表現方法で納得して頂き、職員には決定権は本人様にあることを徹底している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	運営理念にもあるように「その人らしさを大切に」を念頭に置き日々業務を優先するのではなく、まずは共に座りコミュニケーションを密にすることを優先し、笑顔が見られる対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際は本人様に服を選んでいただいている。 基本的にはホームへ来訪し行なっているが、理容、美容に関しても、希望に沿える様な体勢をとっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝っていただける方には、調理、配膳、下膳、食事用マット拭き、机拭きに参加していただいている。 調理に関しては、原材料を持ってきていただき、料理が出来るまでの音やにおい、時には味付けに希望があれば沿えるようにし、楽しんでいただいている。 箸や茶碗、湯飲みに関しては、使い慣れたものを持ってきていただき使用していただいている。 希望があれば、外食やホームでお好み焼き、たこ焼きを作り食していただいている。 入居者様、家族様にもご好評頂いているバーベキューを屋上や玄関先を利用し年二回開催している。	食事は宅配業者から食材の搬入を受け、3食ともホームで調理しています。利用者は準備や片付け等、できることを一緒にしています。利用者は職員と共に年に数回、おはぎ等のおやつ作りを楽しんでいます。また、利用者の希望に副って外食に出かけたり、お好み焼きやたこ焼きを作ったり、家族を誘って一緒にバーベキューを楽しむこともあります。職員は利用者の好みを理解した対応をしており、好みに合わせておかわりを勧めるなど、利用者の体調にも配慮しながら、食事を楽しむ支援をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をして いる	水分の補給量、食事の摂取量をケア チェック表に記録し、全職員が情報を 得られるようにしている。 水分に関して、嚥下困難な方に対して は、トロミをつけ、コップで飲みにくい方 に対しては、吸い飲みで提供してい る。 食事に関しても、咀嚼の状態に合わ せ、刻み等その方にあわせていろい ろな形態でお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、毎食後、就寝時の歯磨き、口 腔ケアを実施している。 又、歯磨きが不十分な方には、再度磨 き直しをさせて頂き、ご自身で無理な 方にはこちらでさせて頂いている。 義歯使用の方には、適宜ポリドントを 使用し洗浄させて頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を 活かして、トイレでの排泄や排泄の自立 にむけた支援を行っている	入居者様一人、ひとりの排泄リズムを 把握するため、チェック表を作成し、パ ターンをつかむよう心掛け、声掛けを 行っている。 拒否もあり、難しい点もあるが、普通 の下着、紙パンツ等段階を経ている。	職員は排泄チェック表を活用して、利 用者一人ひとりの排泄状況を確認し、 時間を見て声かけするなど、オムツ類 に頼らない支援に取り組んでいます。 重度化した場合でも便意のある利用者 には、職員二人でトイレ誘導を行うな ど、利用者の自立を意識した組み 組みを進めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給やホットパック、歩行練習等にて体を動かして頂いている。 トイレに着座して頂き腹部マッサージを行う等支援させていただいている。 入居者様によっては、下剤の使用や食事の際お茶をゼリー状にしたものを食べて頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	スタッフの都合を優先させるのではなく、入居者様の気分やその日の体調で判断し、極力本人様の希望に沿えるようにしている。	ホームでは、特別な行事等がない限り、週3回の入浴支援をしています。希望があれば、予定外の日でも入浴することができます。また、体調や気分がすぐれない場合には、翌日に変更したり、時間を変更したりするなど、臨機応変に対応しています。柚子湯や菖蒲湯など、季節の湯を楽しむ支援もしています	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様一人、ひとりの生活習慣をなるべく崩さないよう心掛け、一日の中で睡眠時間を確保している。また、レク等も強制せず、入室される方は自由にさせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>症状、服薬に関して申し送りノートに記し、薬を組む者、確認する者、服薬支援する者、その薬が本人様のであるか確認する者、という風に薬に関する確認は二者確認しており、入居者様全員の内服に関しては、内服一覧表と、写真入で作用、副作用を確認できるようファイルを作っており、職員全員が閲覧している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>女性入居者様は裁縫等を自らされている。又職歴や趣味を活かせるお手伝いをお願いしている。</p> <p>洗濯物干しや洗濯たたみ、盛り付け、テーブル拭き、フロアの掃除等ご自分の出来ることを無理の無い程度にご自分の役割と感じ、していただいている。</p> <p>懐かしい歌の番組やビデオを見ていただくと口ずさまれる。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋上への外気浴や洗濯物干し、散歩、近所の公園には出かけているが、拒否もあり、毎日は難しい。 ベランダにプランターを置き、野菜や花を植え、水遣りをしていただいている。 本人様の希望により近くの店へ買い物に出かけたり、喫茶店へ出かけているが、場所等により家族様の都合もあり実現は困難に近い。 サブリーダー会議にて、レベルに合わせたグループ分けをさせて頂き、買い物や散歩、喫茶店に出かけていただいている。 家族様やボランティア等の協力による外出については検討はしているが実現できていない。	ホームでは周辺の公園等を散歩する、買物に出かける、喫茶店に出かける等の取り組みをしていますが、冬場は外出の機会が少ない状況です。年間行事では、お花見や小学校で行われる地域の体育祭等にも出かけています。利用者の高齢化や重度化により、外出意欲が低下していることもあり、以前に比べて外出の機会は少ない状況です。	ホームでは、今後も外出支援の充実に向けて取り組む予定にしています。利用者一人ひとりの外出状況を分かりやすく記載し、職員間で利用者の外出状況を認識しながら、少なくとも利用者が週1回程度は外出できるように取り組むことが期待されます。外出困難な夏冬等の季節には、ドライブ等を企画してはいかがでしょうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	特定の方は現金を所持されている。 買い物や夏祭りにて出店で物を買われる際、お金をお渡しし、払っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	事務所へご案内し、電話をかけていただいている。時間帯によっては、フロアからも電話できるようにしている。 年末には年賀状を作成し、投函された。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	オープンキッチンになっており、視、聴、嗅覚で料理を感じていただける。毎月ボードに装飾をして季節感を出している。 カーテンを2重にする等不快な光を極力なくし、各居室、リビングの照明に関しても段階的に調節できるようになっている。	1階の総合玄関を入ると、応接間、事務所等があり、利用者が過ごす2・3・4階には、玄関横のエレベーターで上がることができます。2・4階には居間、キッチン、浴室、居室が設置されており、3階には居室を配置しています。屋上には広いテラスがあり、プランターでネギ等の野菜を育てています。2・4階のリビングは明るく、さわやかなカーテンで彩られ、やわらかな採光のもと、テーブルと椅子、ソファ、テレビ等を配置し、利用者がくつろげるようにしています。トイレは車イス対応で使いやすく、浴室は家庭的で安全に配慮したイス等を配置しています。居間には絵画や手作りの作品等を掲示し、季節柄お雛さまを飾って楽しんでいます。温度計や乾湿計も配置して、清潔で居心地の良い環境づくりをしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少し離れた場所に、二人がけのソファを置き、お一人や気の合う者同士でくつろいでいただいている。 食事の席で、気の合う方同士塗り絵を楽しまれたり、新聞や雑誌を読まれたりされる。又、別のソファでもお話やテレビを楽しまれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用しておられた家具や寝具等を、入居時に出来る限りもって来ていただき、使用していただいている。 入居者様の中には家族様、ご友人から頂いた花等を飾っておられる。 カーテンは、防火カーテンを使用しているため、ホームの物を使用していただいている。	居室には大きな窓があり、明るく景観も楽しめます。室内には備え付けのカーテン、クローゼット、ベッド、洗面台、エアコンを設置しています。利用者は、使い慣れた寝具やタンス、テレビ、時計、冷蔵庫、仏壇、写真、ぬいぐるみなどを持ち込み、過ごしやすく工夫しています。室内の整理整頓や清掃等は、毎日職員が支援しています。明るくさわやかなカーテンを配置し、清潔で居心地が良く、過ごしやすい居室にしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	エレベーターや玄関には、解除番号を掲示している。 各居室には、手作りの表札を作り、トイレに関しても手作りで案内や札を作り、わかりやすいよう配慮している。 動線にはなるべく物を置かず、十分なスペースを確保している。 必要な方の居室内、廊下等入居者様が不安に思われるところには手すりを設置している。		